

日中関係の変化 -その背景にあるものをさぐる-

愛知大学国際中国学研究センター・愛知大学国際問題研究所共催

企画責任者 顧令儀（愛知大学国際中国学研究センターICCS研究員）

2013年11月10日（日）、『日中関係の変化—その背景にあるものをさぐる』と題し、愛知大学にてワークショップを開催した。

現在、日中両国の関係は悪化しており、その関係改善のきざしはいまだ見えていない状況にある。なぜ国交回復当時良好だった日中関係が今日のように、過去最悪の状況になったのか。それを考える上で、近代以降の日中の歴史は不可欠な視点である。また近年では政治、経済、外交、教育など様々な要素が関係しており、多角的な視点から理解し議論する必要があると考え企画をおこなった。各報告者、タイトルおよびコメントは右記の通りである。

報告後は各報告に対する質疑応答、総合討論を行った。現在の日中関係の背景にある政治、外交、歴史認識、中国における教育、経済関係を理解することで現状をより客観的にみることができ、また、こうした状況の中で日中両国の若手研究者が一同に会して議論できたことは非常に有意義であったと考える。



「清末期日中関係における日本人教習とその位置」

野口 武（愛知大学中国研究科博士後期課程）

コメント 馬場毅（愛知大学現代中国学部教授）

「領土問題から見る日中関係の新展開」

郭 鑫（北京大学歴史系研究員）

コメント 周星（愛知大学国際コミュニケーション学部教授）

「周恩来のアフリカ訪問と、フランスの中共承認に対する日本と国府の反応」

村上 享二（愛知大学中国研究科博士後期課程）

コメント 馬場毅（愛知大学現代中国学部教授）

「中国高校教学中的“中日関係”」

杜 曉燕（西安交通大学人文学院）

コメント 周星（愛知大学国際コミュニケーション学部教授）

通訳 顧令儀（愛知大学ICCS）

「中国を中心とした東アジア地域国際分業の進展

—2005年アジア国際産業連関表の推計を通じて—

陳 延天（中部圏社会経済研究所）

コメント 高橋五郎（愛知大学現代中国学部教授）

総合討論